櫻守の会

2020年1月1日（通巻248号）
発行：櫻守の会代表　　近藤　茂
〒665-0845　宝塚市栄町3-4-10-505
会員数　113名（12月25日現在）
HP：http://www.sakuramori.net

2020年1月　　十余年間の活動体験と思い出、7題　　上田　威

（1）武庫山でのヤマザクラの植樹：2012 年 6 月に土井前代表の提案に習い、亦楽山荘桜坂でヤマザクラの種拾い、果肉を取り除き、冷蔵庫に保管。翌年春にポットに種蒔き。5 本発芽したが、生長して残ったのは僅か 2 本。私はこの 2 本を武庫山の広場脇に植樹。1 本だけ生き残り、今では高さ 2 メートルにまで育っているがまだ花は咲いていない。蕾を付けるのは何年先？

（2）山手台でのクズ駆除：T さんと南斜面に蔓延っていたクズの駆除を手掛けて 6 年余り。1 メートルにも伸びた根っこを掘り起こした事もあった。会の定例活動にもなり、駆除の効果も見えて来た。

（3）亦楽山荘、赤松展望所での土留め：北側斜面に地肌剥き出しの場所があり、実生の松の苗などが芽吹くのだが、冬の霜柱で枯れてしまう状態が続いていた。ここに伐採木を利用した木杭や刈り取った木の枝などで土留めをすると、落葉も貯まり、2 年後には幼木がちらほら。その後、定例活動時の作業効果もあって、今では実生の松やヤシャブシが茂り、展望所とは名ばかりになっている。

（4）凧の骨集め（花と緑のフェスティバル）：フェスティバルの人気品目の凧は 7-8 年前に元会員のNさんの発案で始まった。当初、凧の左右の骨は軽くて、加工もし易いススキの穂の茎を利用。冬～初春の間に川原や山裾でせっせと集めた。この茎は強度の面で難点あり、山手台の竹で作ったヒゴに替えたが、今では市販の竹ヒゴが使われている。

（5）鋸刃目立て：入会当時は鋸の支給基準は厳しく、入会 1 年後頃に漸く支給された。替刃の支給基準はもっと厳しく、刃先は丸く摩耗して切れ味も悪くなっていた。ある日、私の鋸を借りた先輩が、“この鋸は全く切れない！”　との発言のお陰で新しい鋸刃に交換して貰えた。これ以降、自分で鋸刃の目立てを手掛ける様になり、今に至っている。

（6）和ろうそく作り：武庫山からハゼの実を持帰り、蝋を抽出。会員の方に頂いた和紙を芯として、竹の筒に流し込むと自家製和ろうそくが出来上がり。ちらちらと炎が燃えた。

（7）桜のホダ木にシイタケ（環境学習）：冬の環境学習にシイタケ栽培を取り入れている。原木に通常はコナラを使うが、桜でも可能と聞き、桜の原木 1 本を混入。2 年後にこれにも 3 本のシイタケが生えて来た。

2018.4　山手台のクズ駆除

2016.12　ハゼの実で作った蝋燭

********** 目　次 **********

表紙	P1	序文
活動報告	P2～P6	桜の園・亦楽山荘、ゆずり葉の森、青葉台、山手台、武庫山の森
イベント報告	P6	逆瀬台小学校環境学習
お知らせ・案内	P7～P10	運営委員会報告、武庫川エコハイク、会員消息、寄稿、会員紹介
活動予定	P10	1 月・2 月

＜ 活動報告 ＞

桜の園（亦楽山荘）　　吉田　隆信

11 月 23 日（土）　　晴れ　　参加者 26 名（内 2 名体験参加）

紅葉シーズンで祭日のためか、団体・家族のハイカーが多く園路整備などは何度も作業中断しましたが、モミジをはじめ紅葉の盛りの中で作業ができました。

作業区分	作業場所	作業内容	人数	リーダー
森の整備	桜坂上部	常緑樹の伐採、桜周辺の除伐他	11 名	濱野
伐採	遠見の道（外周路）	園路際の倒木、枯れ木の伐採他	7 名	坂田
園路整備	周回路	階段の補修、園路周辺の整備	6 名	瀧本
その他	遠見倉庫周辺	資材棚前の階段補修等	2 名	

・森の整備（桜坂上部）

前回に継続して、東屋から桜の尾根植樹地に至る下斜面の常緑の間伐を行う。特に本日は、斜面に大きく張り出したヤブツバキの大木を２本伐採し、太陽の光を大きく取り入れた。体験者と取材の宝塚 NPO センターの方にも、伐採枝葉処理の実習をして頂いた。また、作業後に紅葉のビューポイントで色づいた木々を観賞しました。（濱野）

桜坂上部　常緑伐採枝葉処理

・伐採遠見の道（外周路他）

外周路に向かう途中、林間広場と崩落地上の中間ほどの地点で、園路脇の枯れ松と枯れコナラ各１本を伐採。その後、四辻にて櫻守の守備範囲からは外れるものの、大峰山登山道近くの枯れ松、枯れコナラ等数本を伐採した。昼食を取り外周路に入る。園路周辺を点検しながら進み、園路山側（これも守備範囲外だが）のソヨゴ数本と、朽ちて倒れた枯れ松、枯れコナラで園路に落下するおそれのあるもの主体に除去しながらササラ沢に到り、雨で滑りやすくなった滝上の沢を用心深く渉り、瀧見の道で下山した。（坂田）

四辻　伐採枯松処理

・園路整備（城ケ丘～隔水亭～林間広場）

紅葉真っ盛りで、ハイカーの訪れがピークになることから、前回に継続して周回路の園路整備を実施した。城ケ丘から隔水亭に至る下り坂、東屋への登り、林間広場に至る大峯道の横木の交換・新設を行った。11/28 の逆瀬台小学校の環境学習に備え、林間広場の整備、とヤッホーピーク周囲の伐採、丸太切材料の準備を行った。（瀧本）

12 月 6 日（金）　　晴れ　　参加者 24 名

動きが止まると風が冷たく、休憩も短くして作業に取り組みました。また、紅葉は終わりに近づいているようですが山はまだまだ赤茶色に色づいていました。

作業区分	作業場所	作業内容	人数	リーダー
森の整備	桜坂上部	常緑樹の除伐、モチツツジの間伐	9 名	坂田
森の整備	桜の尾根植樹地他	植樹地桜周辺除伐、作業路修復	7 名	加賀野
伐採	赤松周辺	桜周りのヤシャブシ、枯れマツ伐採	8 名	濱野

・森の整備（桜坂上部）

桜坂上部尾根側と、桜植樹地作業道下部の区間に散開し継続作業として常緑樹（主に低木）の除伐、

ツツジの間伐を行った。これまでの作業も含め整備済み部分はだいぶ広がってきたが、まだ常緑の密集部分もかなり残っており、引き続きの作業が必要と思われる。（坂田）

・森の整備（桜の尾根植樹地）

分担して重い資材（丸太材、鉄筋杭、ハンマー等）を持ち上げ、作業に取り掛かりました。午前中は、作業路整備（階段の補修）と桜周辺の除伐の２班に分かれて作業し、階段の補修は細かく補修、新設を合計 14 か所行ったこともあり午前中で資材切れとなりました。日が陰ると肌寒くなり、ソソクサと弁当をとり早々に作業を再開しました。植樹桜の成長は同じ時期に植樹したものでも大きな差があり、樹間に沈む成長のおそい桜も新芽の有無などを頼りに周辺の松、アラカシ、ヒサカキ、ソヨゴ等の常緑樹の除伐と数多く分株したツツジの剪定を行い、多い目に見て植樹地の約半分の整備ができました。（加賀野）

・伐　採（赤松周辺）

まず城ケ丘広場のすぐ上で、モミジの木に掛っていた大きな枯れた木（樹名不明・ウルシ系）をチェンソーを使い伐採処理してから、赤松展望所近くまで赤松道を登る。園路に面していた大きな枯れマツ２本をチェンソーを使い伐採する。次に、桜周りのヤシャブシ大小４本を伐採する。同時に桜周りの常緑樹の除伐も行う。まだ付近に桜の成長を邪魔しているヤシャブシが残っていたが、次回に持ち越した。山はすっかり冬の季節となり、昼食も山陰に隠れ取りましたが、大変寒い一日でした。（濱野）

赤松付近　伐採ヤシャブシ処理

12 月 12 日（木）　　晴れ時々曇り　　参加者 27 名

時折枯葉舞い散る中、常緑除伐と桜周りの整備を行いました。ようやく冬らしくなりました。

作業区分	作業場所	作業内容	人数	リーダー
森の整備	桜坂上部	常緑樹の伐採、モチツツジの間伐選定	８名	瀧本
森の整備	桜の尾根植樹地	実生・植樹桜周辺除伐、作業路修復	９名	坂田
伐採	赤松周辺	桜周辺のヤシャブシ伐採他	８名	濱野
その他	親水広場周辺	階段の修復、清掃	２名	

・森の整備（桜坂上部）

桜坂上部の常緑樹と繁茂しすぎているモチツツジを中心に積極的に伐採、間伐を実施した。傾斜がきつく、一日中足を踏ん張っての作業は結構疲れる。林床が随分明るくなったが、何せ範囲が広いので、しばらく作業継続の必要がある。（瀧本）

桜坂上部　常緑除伐

・森の整備（桜の尾根植樹地）

階段用横木 2m×3 本、鉄筋 18 本を桜坂上部作業班の協力も得て手分けして運び上げた。前回に引き続き、植樹地最下部から階段の欠落部分を補修しながら上がっていったが、すぐに資材を使い切ってしまったので、以降は全員で桜回りの除伐を行った。林間広場へ抜ける最上部までの階段をすべて補修するためにはさらに 30 段近くが必要と思われるが、資材運搬の難もあり、何回かに分けて実施してゆくのがよさそう。桜周辺の除伐は、今回をもって一旦終了とする。（坂田）

桜の尾根植樹地　桜周り除伐

・伐　採（赤松周辺）

前回に引き続き、赤松植樹地の横の谷、桜周辺のヤシャブシ大小合わせ６本を伐採する。また、立ち枯れのマツの処理をチエンソーを使い実施した。さらに周辺の常緑樹の除伐を行った。特に、大きなヤシャブシの周りに桜４本があり、こ

の桜を救出すべく、重心方向とは逆方向にチルホールを使い徐々に倒していくことにより、桜に被害なく伐採することが出来ました。(濱野)

赤松　ヤシャブシ伐採

ゆずり葉の森　　上田　威

12 月 9 日(月)　　快晴　　参加者 12 名

最低気温は季節相応で低かったが、快晴に恵まれ日中は気温も上昇、活動中は汗ばむほどだった。三班に分かれて作業。一班 5 名は枯れ松が目立ってきたユズリハピークでの伐採を担当。チェンソーも使用して 15 本ほど伐倒/処理。二班 4 名は白瀬川床脇のシイタケホダ場で崩れてきた添え木の補修など。終了後はどんぐりの丘に移動してウバメガシ等の常緑樹の伐採。三班 3 名は植樹畑周辺の整備とダンコウバイなどの移植に備えての穴掘り。作業終了後にご神木に御神酒を供えて今年の活動を締め括った。

ゆずりは葉ピークでの枯れ松伐採/処理

植樹畑での落ち葉集め

青葉台　　上田　威

11 月 27 日(水)　　晴れ後曇り　　参加者 10 名

降水確率は高かったが、雨には遭わずに活動が出来ました。2 月に予定されている小学校 2 校の環境学習用に使うホダ木の準備を全員で行った。2 班に分かれて、一班は倉庫裏で、もう一班は光が丘ルート入口で作業した。適度な口径の立木や枝を切り 1 メートル長に切断。汗を流しながら 2 箇所の集積場所に運んだ。この作業は午前中でほぼ終了。午後は枯れ松の伐採と倉庫周辺での常緑樹伐採を含む整備を行った。

光が丘ルートの片隅に積まれたホダ木

山手台　　岡　敏明

12 月 17 日（火）　　曇り後雨　　参加者　23 名

小雨が降ったり薄日が差したりの天気で何とか午前中は作業ができたが、やや雨が強くなり予報も午後の方が悪いのであきらめて午後の作業は中止にした。作業終了後、全員でご神木桜の前で「安全」のお礼参りをし、集合広場に帰って乾杯で 1 年の締めを行った。

作業の概要は下記の通りです。

1. 南斜面および大階段　　(9 名)

南斜面では、ヤマザクラの日陰になっているササベザクラを移植するための掘り起こしおよびオオキンケイギクの抜き取りを行った。しかしササベザクラの掘り起しは時間がないため終わら

ず、移植は次月に持ち越しとした。大階段では新年を迎え落ち葉の除去などの清掃を行い、見違えるようにきれいになった。

2. 中川大橋周辺の枯れ松伐採など　(7 名)

大橋手前斜面では、3 本の枯れ松伐採と前回伐った枯れ松の処理を行った。大橋北側では、背の高い 1 本の枯れ松伐採と周辺の除伐を行った。

3. アジサイロード竹藪側の整備　(7 名)

アジサイロード側公園奥では、刈払機などで草・笹・ひこばえの刈り取りと雑木の伐採を行った。またアジサイロード最下部では、桜・コナラ等の枯れ倒木の処理、蔓延る常緑樹の伐採処理を行ったが、数も多くツルに絡まれていたため、多くが未処理で残ってしまった。

中川大橋北側　枯れ松伐

アジサイロード最下部
枯れ桜処理

ご神木に向かってお礼

武庫山の森　　岸本　英邦

12 月 1 日(日)　　晴　　参加者 19 名

寒い朝だったが作業すると汗ばむ。森は紅葉真盛り、ナラ枯れも収まってきたようで、きれいなコナラに安心する。

1. 南谷堰堤東南の森の整備（継続）　7 名

枯マツと枯コナラをチェーンソーを使用して処理した。あと、以前倒したままになっていた倒木を玉切りして整理した。その後は、県が処理した木の巻き添えで倒れた木を整理、東口周辺の常緑樹の処理をした。園路から見える範囲は綺麗にできたので、今回で終了と。

宝松苑道　枯マツの伐採

2. 東道路沿い斜面のコナラ伐採跡の整理（継続）　5 名

広い空間ができた伐採跡に残っていた細い枯コナラ 1 本と幹折れして無様なソヨゴ 1 本を伐採。前回伐採したソヨゴの枝葉処理、ツツジの株に被さっているコナラの枝葉の整理をした。続いて道路から見て暗さが残っていた北側の谷と武庫山ルート周辺の常緑樹を除伐した。斜面とルート直近はきれいなったが、道路から見える尾根上で斜めに伸びたソヨゴの大木が残ったので次回に。

3. 連絡道中央ルート側の尾根の森の整備（継続）　5 名

前回からの継続で連絡道沿い下側斜面の常緑樹を除伐。斜面下部と中央道よりに範囲を広げた。 連絡道から見下ろした斜面下部はまだ大分背の高い常緑樹　が繁茂しており暗い印象、さらに継続作業の必要あり。

12 月 21 日（土）　　晴　　参加者 24 名　(内 1 名体験参加)

師走も後半とは思えない暖かい日。森はコナラの紅葉がまだ残りきれい、モミジ、タデなども所々。本年最後の作業日にふさわしい作業日和だった。

1. 連絡道の下斜面、宝松苑側の整備　　８名

連絡道へ入る前に、中央道沿いにある傾斜したウリカエデを体験の方も参加して伐採処理した。その後は宝松苑側の連絡道下部を中心に常緑を除伐した。アオキ、ヤブニッケイ等を除伐し見通しが良くなりすっきりとした。もう一回作業すればほぼこの作業は終了か。

東道路上　斜めソヨゴ伐採

2. 東道路沿い斜面のコナラ伐採跡の整理（継続）　８名

まず道路にはみ出したアラカシの幹や枝を高ノコで切って道路の安全と美観を確保した。次に本命の尾根の端にある斜めのソヨゴを伐る。チェーンソーが欲しい太さだったが住宅近くなのでオオノコで。無事に倒せたが枝葉の処理が大変だった。南の空が見えるようなり、見通しと日当たりが大幅に改善された。次に隣のコナラ伐採地で巻き添え木や枯れ木の処理と常緑の除伐をして、道路上の整備は完了とした。

3. 連絡道の中央ルート側の尾根北側の森の整備　　７名

尾根から中央ルート側の谷にかけての常緑樹を除伐。林床を暗くしているヒサカキ、アオキや見通しを悪くしているヤブニッケイの伐採を中心に進めた。武庫山の森ではこの周辺にだけで見られるシャシャンボが数本新たに見つかり印を付けた。実も見つかり試食し、爽やかな甘酸っぱい味を楽しめた。

連絡道　アオキの除伐

★終礼後、広場のサクラにお神酒を供えこの一年の安全作業を感謝しながら納会を行い今年の活動を終了した。

＜　イベント報告　＞

逆瀬台小学校環境学習　　上田　威

11 月 28 日（木）　曇り　　参加者：児童 50 名、先生 2 名、会員 17 名

亦楽山荘は曇り空、風もあり寒い一日だったが、児童達は元気いっぱいで環境学習に取組んだ。バスで温泉橋に到着後、廃線跡、モミジの道とどんぐりの道を経て城が丘と東屋を通り、目的地の林間広場に到着。急な上り下りのある山道を 1 時間余り歩いたにも関わらず疲労の気配無し。昼の弁当を済ませて午後の勉強。①ヤッホーピークでのヤッホー叫びと地図/磁石を使っての方位や方角の学習、②鋸を使用した輪切り体験と切り取った円盤を使ってのペンダント作り、③ポスターを使った「森のめぐみ」についての講話、④森で生長する木とサンプルを使用しての年輪についての講話。学習を終え、13：50 に林間広場を出発。帰路は大峰道から桜坂経由で廃線跡入口へ。終礼を終え、元気な姿で 14：50 にバスで武田尾を出発した。

武庫川の谷に向かってヤッホー

鋸体験でできた輪切りを使ってのペンダントづくり

＜　お知らせ　・　案内　＞

運営委員会報告（11 月度）　　代表　　近藤　茂

日時：2019 年 11 月 29 日（金）　10:00～12:00　　場所：ぷらざこむ１　25A 会議室

（議題）

① 11 月度実施行事の振り返り＆報告事項：

1）環境学習支援･･･美座小、中山桜台小、逆瀬台小の 3 校を実施した。前回の実施内容の反省を踏まえて改善を加え、少しずつ内容が充実している。

2）芋煮会･･･11 月 13 日に実施。参加者からの差し入れも多くあり、3 万円程度の赤字で収まった。料理は質・量ともに丁度良かった。

3）桜の園の整備依頼･･･11 月 6 日に宝塚市公園河川課を訪問して、当会の実力では伐採困難な枯コナラ等大径木の伐採・道標の整備・園内案内板の整備を具体的な資料を添付して依頼した。大径木の伐採は、1 月中旬以後の園内訪問者の少ない時期に実施して頂くことになった。

4）みどりの募金･･･芋煮会時の募金とお賽銭（桜の園＆山手台）併せて 2,950 円を振り込んだ。

② 桜の園・亦楽山荘の樹木調査･･･内周路は調査を完了した。廃線跡と外周路が残っており、12 月に 2 回調査を行った後、葉が落ちて調査困難になる 1 月・2 月は休止の予定。

③ 活動地の予備ノコギリ･･･希望する会員への配布は完了した。美座小（環境学習用）と川西市立桜が丘小の活動チームへの寄贈を承認した。竹用ノコギリの再配置を行った。

④ 助成金関係･･･2019 年度実施状況：資材置場ラック 2 基＆活動紹介パネルは順調に進捗している。
2020 年度申請予定：2012 年に設置した桜の園の園路地図板（12 基）の地図が実情と違ってきて訪問者を混乱させているので、地図を最新版に更新する。

⑤ 会報スタイルの見直し（継続審議）･･･たたき台を基にどのように改善したら良いか議論した。

武庫川エコハイク第 151 回「大平山から船坂峠を歩く」　　エコグループ・武庫川

今回は住宅地近くの里山を通り東六甲縦走路を経て、逆瀬川源流に近い山を歩き、逆瀬川の砂防の歴史を訪ねます

日　時：2020 年 1 月 11 日（土）　　雨天中止

集　合：阪急電鉄「逆瀬川駅」改札口前　　９時３０分
（阪急バス「エデンの園」行き９時４６分発乗車）

ルート：阪急逆瀬川駅前（バス）･･･エデンの園～逆瀬川上流～大谷乗越～六甲縦走路
～太平山（標高 681m）～船坂峠～清水谷～船坂バス停
★帰路はバスで（宝塚駅又は西宮北口駅）行きに乗車できます

解　散：１５時頃　船坂バス停　（約８km/高度差 400m・健脚向き）

（★バス時間：宝塚駅行 15：29・西宮北口行（船坂橋）15：06・16：14）

会員消息　　事務局

入会　　神野　徳子　さん　　今後ともよろしくお願いします。

退会　　寺田　正博さん　　長い間有難うございました。

＜会員寄稿＞

「他人事（ヒトゴト）ではない地球温暖化」　　喜多　康夫

今年も巨大台風や前代未聞の大雨による被害など、地球温暖化の影響を思い知らされる出来事が世界各地で多発している。この数年異常気象が「異常」とは言えないほど頻発するのを見て、地球温暖化問題にそれとなく不安を感じている人も多いのではなかろうか。温暖化の原因が、多量の化石燃料を消費している私たちの豊かな生活にあることも広く知られている。しかし忘れてならないのは、豊かな生活の恩恵を受けてきた主に先進国に住む人々（世界人口の 1～2 割？）が原因を作ってきた（加害者）一方、温暖化に殆ど責任の無い貧困国や開発途上国で貧しい暮らしをしている人々、及び今後生まれてくる世代やこれからも長く生きていく若い世代には、温暖化による影響が更に重くのしかかっていく（被害者）、ということである（気候正義の問題）。その加害者である私たち先進国で暮らしているほとんどの人は、省エネなどエコな生活をできる範囲で少しは実行していることで充分責任を果たしていると満足し、「科学者や政治家が必要なことをやるだろうから、あとは成り行きに任せるしかない」と思っているのではないだろうか？

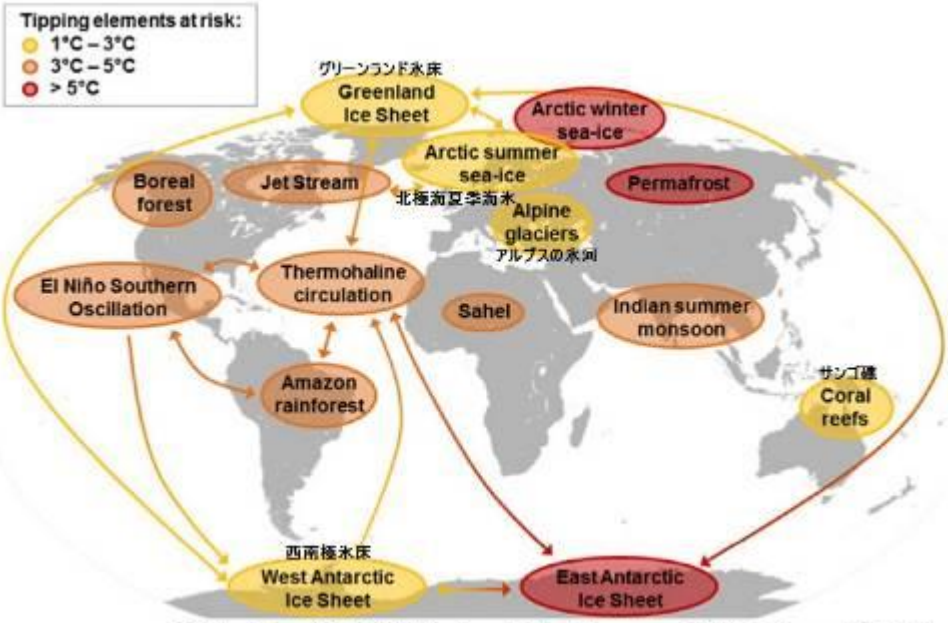
しかし、温暖化問題が世界的課題として広く認識されて以来 30 年以上経過し、国際政治の舞台でさまざまな取り決めが行われたにも関わらず人間活動に起因する CO2 など温室効果ガス排出は増え続けている。その結果、現生人類出現よりはるか昔（80 万年前）から 300ppm を越えたことが無かった CO2 濃度は、現在 400ppm を越え、世界平均気温は工業化前に比べ約 1℃高くなっているが、このまま進むと今世紀末には 4℃前後高くなると推定されている。そうなると、桁違いの気象災害、自然生態系の攪乱貧弱化、食糧生産や真水資源の減少、気候難民・紛争の増加、などなどにより、現在より相当暮らしにくい世界になることは容易に想像できる。さらに加えて世界平均気温上昇が高くなるほど、予測計算にも反映できていない気候が急変する要素(ティッピングエレメント、例えば北極海氷の消失、メタンハイドレードの分解などなど)の臨界点(ティッピングポイント)を越えて温暖化を制御できなくなり、人類や多くの現存する生物種が体験したことが無い「温室地球」となり、人類文明や多くの生物種の存続が難しくなる可能性がある。このような状況は「気候危機」「気候非常事態」と呼ばれることも多くなり、2015 年 COP21 では、「工業化前からの世界平均気温上昇を 2℃より充分低く抑え、1.5℃に近づける努力をする」という「パリ協定」が全会一致で採択された。

しかし、多くの科学者の見解として「2℃でもいくつかのティッピングポイントを越える可能性が無視できないので 1.5℃目標に限りなく近づけることが肝要だ」ということになっている。そのためには世界の温室効果ガス排出をすぐにでも減少に転じ、2030 年には半減 2050 年にはゼロにすることが必要であり、社会の大変革が必要といわれている。このような現状に関する認識は科学者や温暖化問題に大きな関心を持っている人々の間では共有されているが、一般市民はもちろん社会の転換をリードできる政治家や企業経営者には充分浸透していないように見える。昨年 8 月、スウェーデンの一中学生（当時）が温暖化問題に対する政府の対応の遅れや大人社会の無責任な無関心に抗議して国会前に座り込みを始め、これがネットを通じて拡散して多くの若者の共感を呼び世界的な運動になっている。今年 9 月の世界一斉行動「グローバル気候マーチ」は、若者達から全世代に呼びかけられ、世界 185 カ国 4500 カ所 760 万人が参加したそうである。日本では東京 2500 人を含め京都・大阪・神戸など 27 カ所で合計 5 千人が（小生も孫たちを連れて大阪に）参加したが、大都市での参加者の人口に対する比率を見ると、数十万人が参加したベルリンやローマの 7%強に対し東京 0.03%、大阪 0.01%と、日本社会の関心の低さが際だっている。

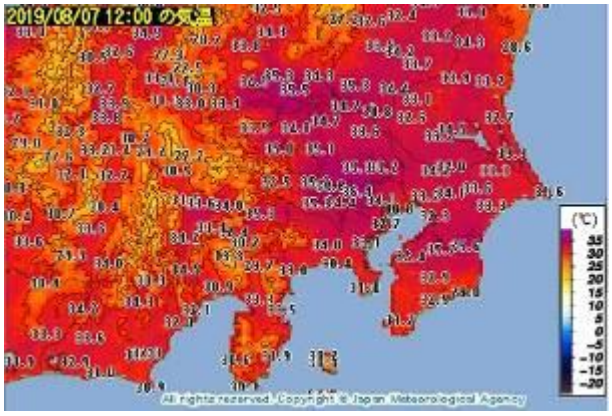
巨大な地球全体の気候の変化はタイムラグが大きく、温室効果ガス排出が減ってもその結果が現れるには数十年かかる。また 70 億人を越える中の一人の行動が与える影響は超々微々たるものではあ

るが、これを集めると変化を起こす力にもできる。これまで一先進国として多量の温室効果ガスを排出してきた私たちは、率先して大幅な排出削減に取り組むことが、貧困国ばかりでなく今後の時代を生きる私たちの子供や孫に対する責務である。私たち一人一人が現在の深刻な状況に関する正しい情報を理解し、この非常事態に対処するため充分な政策を求め、その実行に協力すべきだと思う。

（参考画像）



"Trajectories of the Earth System in the Anthropocene" Will Steffen et al. 2018 より



＜ 会 員 紹 介 ＞

社納　隆博　さん

今年の７月、入会しました社納隆博です。

団塊の世代生まれです。何分めったにない苗字ですから、今まで直ぐに覚えていただく方か全く覚えていただけない方もおられます。

入会の動機は、今年の４月に桜の園・亦楽山荘に桜を鑑賞に出かけて、貴会のメンバーに入会案内を頂いたのがきっかけです。若いころから登山が趣味で、近年山道の荒廃を目の当たりに（特に近畿の山の）し、心を痛めていました。会社を弟に譲り、生まれ育った大阪より三田に移って何か山や自然整備のお手伝いができないかと思っておりましたが、貴会をＨＰで検索。活動場所が武田尾、宝塚なら近くですし趣旨に賛同、微力ですがお役に立ちたいと入会させていただきました。会社にも所用が有り、他に三田市でボランティアのお誘いを頂いておりますので月に何度活動できるか分かりませ

んが、皆様にご指導いただきながら出来るだけお手伝いしたいと考えております。今後とも宜しくお願いいたします。

＜ 活 動 予 定（1 月・2 月）＞

月別行事予定表

1 月	場所等	2 月	場所等
1 月 5 日（日）	武庫山の森	2 月 2 日（日）	武庫山の森
1 月 10 日（金）	桜の園・亦楽山荘	2 月 7 日（金）	桜の園・亦楽山荘
1 月 14 日（火）	ゆずり葉の森	2 月 10 日（月）	ゆずり葉の森
1 月 16 日（木）	桜の園・亦楽山荘	2 月 12 日（水）	桜の園・亦楽山荘
1 月 18 日（土）	武庫山の森	2 月 15 日（土）	武庫山の森
1 月 21 日（火）	山手台	2 月 18 日（火）	山手台
1 月 25 日（土）	桜の園・亦楽山荘	2 月 22 日（土）	桜の園・亦楽山荘
1 月 29 日（水）	青葉台	2 月 27 日（木）	青葉台
1 月 30 日（木）	会報印刷（ぷらざこむ）	2 月 29 日（土）	会報印刷（ぷらざこむ）

＜編集後記＞　　令和最初の新年。皆様あけましておめでとうございます。また今年はオリンピックイヤー。世界の人々が戦争やテロでなく平和なスポーツで競ってほしいものです。ところで喜多さんの寄稿内容には地球の危機が迫っていると感じさせられます。今後会員の皆様からの意見・紀行・文芸などを掲載する欄を設けたいと考えています。詳細は追ってお知らせいたします。（ 岡）